

## 渡辺復興大臣及び橋復興副大臣の

衆議院による被災地支援取組の視察ぶら下がり会見録  
(平成31年3月4日(月)12:25~12:30 於)衆議院議員会館)

### 1. 発言要旨

(大島議長) 今年の3月11日で、東日本大震災発災から丸8年になります。今も渡辺大臣ともお話ししていたのですが、時の流れるのは早いんですけれども、被災者の皆さんにとりますと、早いとか遅いとかということよりも、あの時の思いが依然として自分の気持ちの中に残っておられるわけです。したがって、そういうことを乗り越えて、創造的復興に向けて被災者の皆さんが一生懸命頑張って、この8年間、歯を食いしばってこられたことに改めて敬意を表したいと思います。お亡くなりになられた方々、被災者の皆様方にお悔やみと、お見舞いを申し上げます。そのことを我々政治の世界では忘れてはならんことだと思っております。

被災地全体を見ますと、復興庁をはじめ、地方の政府の皆様方、そして、被災者の皆様方の御協力、また、頑張りによって、復興へ向けた姿が非常に明確に進んでいることは事実でございます。ただ、福島の場合は、まだまだ第一原発、あるいはまた、被災者の皆様方、課題はたくさん残っているわけでございます。今日は大臣が御用意してくれて、こうして復興フェアを見させていただきましたが、やっぱりあの被災地は水産業、それから、農業、生業として、そこが中心でございます。取り分け水産につきましても、発災前の6割から7割ぐらいまでは戻っているところがあるけれども、まだ世界的に輸入規制をしておられる国々がある。これは渡辺大臣のもとで、外務省とも相談して、この入り口をオープンにしてもらわなければいけませんし、何よりも国民の皆様方に、もう風評被害と言われるようなことがないように御理解をいただいて、被災地の皆様方に心を寄せていただきながら、そういう産業の新興のためにも、一層御理解いただきたいなと思っております。

渡辺大臣は今、各地を必死に回って、ハードの復興、生業の復興もそうでございますが、被災者の方々の新しいコミュニティにおける、心の問題とか、子どもの教育の問題だとか、特に高齢化が進む地域でございますから、そういう対策だとか、どちらかというと、そういう面での復興政策を今、一生懸命やっただけだと思っております。議会としても今日は高市委員長も一緒でございますが、大臣の進めること、内閣の進めることを踏まえながら、議会としてもしっかりと一緒になって、更なる復興前進のために努力してまいる所存でございます。

(渡辺復興大臣) 今日は復興フェアを衆議院において開催をさせていただきました。議長を初め高市議運委員長の御協力によりまして、本日は宮城県、そして岩手県の物品の販売をさせていただいたわけであります。この物品販売を通じて、いま一度被災地の状況を皆さん方に知っていただこうと、そして、まずは食べていただこうと。そして、何よりも被災地に来ていただこうと、そういった視点が多くの方に知っていただければありがたい、そのように思っているわけであります。

議長から縷々(るる)お話がございました、私が今、取り組んでいることは、まずは情報発信をいかに進めていくかということであります。福島の様子は、まだまだ道半ばという状況でありますけれども、岩手、宮城については、本格的な復旧が終わり、そして、総仕上げの段階に来ている、そのように思っているわけでありますが、これはハードの部分であります。ソフトの部分についてはこれからだという部分が当然ございますので、しっかりと被災者に寄り添いながら、これからも頑張っていきたい、そのように思っておりますので、どうぞ皆様方の御支援を心からお願いを申し上げる次第でございます。

本日は本当にありがとうございました。

(高市委員長) まずは8年前にかけがいのない御家族を亡くされた方々、年月がたっても、そのつらさというのは癒えない。そのように感じております。そんな困難の中でも、そしてまだ、生活の基盤が整っておられない方々も多くいらっしゃる中でも、皆さんが心を合わせて、もとのふるさとを取り戻そうと、頑張っておられる姿勢に心から敬意を表させていただきます。

また、議長の御指導のもと、また、大臣の御活躍のおかげで、こうやって衆議院で復興フェアを開かせていただいたことも大変光栄に幸せなことだと思っております。今、全国各地で民間企業の方々が中心になって、関西でも数年前に復興フェアを開きましたし、今、奈良の企業でも被災地のいろいろな食材、瓶詰やレトルトなどを詰め合わせにしたギフトセットを販売している企業もあって、それはとってもおいしくて、人気のあるプレゼントになっています。今、全国各地でそのような動きが広がっていくことを心から期待して、今日はまずは衆議院で働いていらっしゃるたくさんの方々、そして、衆議院に来られた多くの方々がこんなおいしいものがあるんだ、買うことも被災地への応援になるんだ、そんな思いを持って帰っていただいて、またこの美味を楽しんでいただきたいと思っております。

(以 上)